

地域に根差した気候変動適応プロジェクト

～エアコン利用促進及び日傘利用促進による熱中症低減へのアプローチ～

栃木県環境森林部気候変動対策課

1班

コミュニティデザイン学科
建築都市デザイン学科
社会基盤デザイン学科

君嶋恵実
磯潤一郎
橋本大典

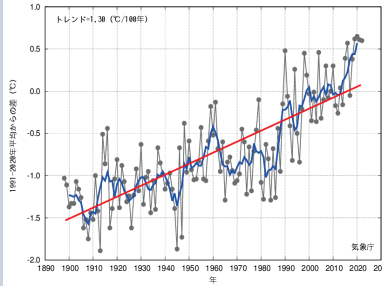
関口莉奈
宗田志穂
松村晃希

三浦瑛人

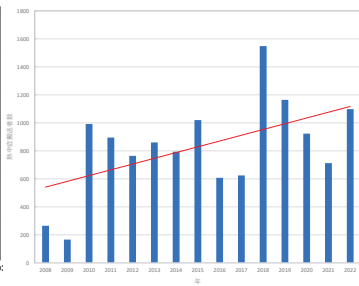


01 背景

日本の年平均気温は100年間で約1.28度上昇している。(図①-a)それに伴い、熱中症の搬送者数の増加(図①-b)、農作物の生理障害等の影響が出ている。これらの問題の根本的な原因である温室効果ガスの排出量を減らしても、著しいスピードで進む気温上昇を今すぐに食い止めることは現実的に困難な状況である。したがって、気候変動の影響に備えて、被害や災害から人々の暮らしや街、自然などを守る「**適応策**」の必要性が極めて高いと考えた。



図①-a 日本の年平均気温偏差



図①-b 熱中症搬送者数の増加
(国立環境研究所 環境展望台ウェブサイトより作成)

02 目的

他人事として捉えられがちな気候変動について、影響を最小限に抑える「**適応策**」の定着に向け、県民の行動変容を促す必要があると考えた。そこで、「**適応策**」の中でも身近な「**熱中症対策**」に焦点をあて、「**高齢者の適切なエアコン使用**」「**男性の日傘利用促進**」をゴールに設定し、アプローチ方法の検討及び提案することを目的とした。

03 方法

① アンケート調査

対象：栃木県庁(回答数3513)、シルバー大学(回答数285)
宇都宮大学学生(回答数86)

形式：Googleform、紙媒体でのアンケート

内容：熱中症対策についての実態についての調査
(エアコン、日傘の利用状況、その他熱中症対策について)

② インタビュー調査

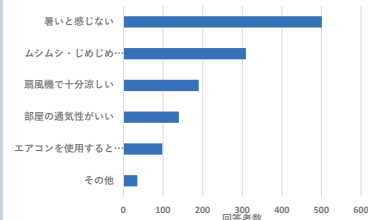
対象：シルバー大学の学生(回答数4)

内容：アンケート調査では得られなかった情報収集
(熱中症についての具体的な意見、実体験など)

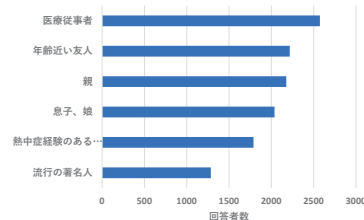
04 分析結果

① 高齢者の適切なエアコン使用促進

■ エアコンを使用しない理由として「暑さを感じなかったため」「ムシムシ、じめじめしていると感じなかったため」の二点が多く(図②-a)、高齢で感覚が鈍り、暑さを感じにくくなると推測された。



図②-a なぜエアコンを使用しないか

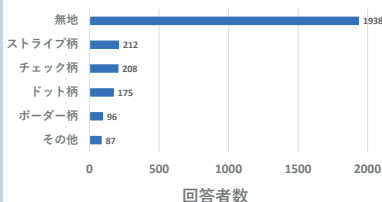


図②-b 誰に呼びかけられたら行動しようと思うか

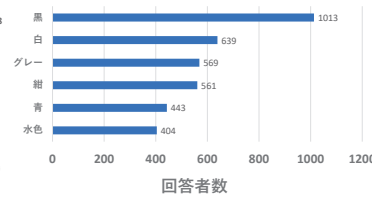
② 男性の日傘利用促進

■ 使いたいと思う柄には無地が多く、次いでストライプ、チェックが多かった(図③-a)。また使いたいと思う色(日傘の外側)で利用したいと思う色は黒が多く、次いで白、グレーが多かった(図③-b)。

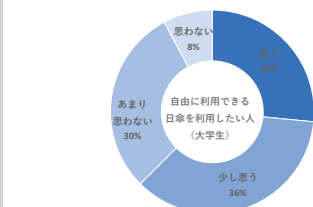
■ 自由に使える日傘があれば利用したいと答えた人は全年齢と比較して学生の方が多かった(図③-c, d)。



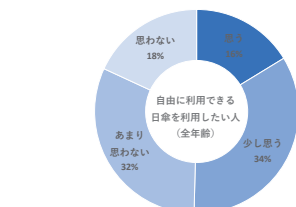
図③-a 使いたいと思う日傘の柄



図③-b 使いたいと思う日傘の色



図③-c 大学生の日傘の利用希望



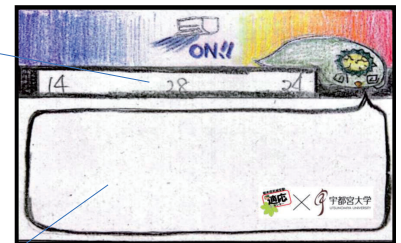
図③-d 全年齢の日傘の利用希望

05 提案

① 液晶温度計を活用した普及啓発

■ 気温によって色が変わる液晶温度計を配布する。

高齢により感覚が鈍くなくても**視覚的に**エアコンを使用する目安が分かるように！

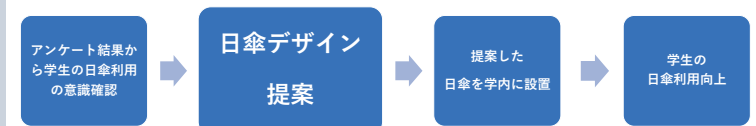


図④ 液晶温度計デザイン案

■ メッセージ欄を設ける。

孫など身近な人からメッセージを書いてもらうことで行動を促す！

② 日傘デザイン及び学内への設置による普及啓発



図⑤-a デザイン案1



図⑤-b デザイン案2